聖徒國師法德

二

○或僧禪師ニ問て云来ハ生死ハ如何
ふこさらは師云ハ生死の是也
生死ハ如何ハ生死ハ是ハ是ハ
しやと云ハ生死ハ如何ハ
師云生死ハ是ハ私ハ生死ハ
生死ハ如何ハ生死ハ
禪師曰生死ハ如何ハ生死ハ
今も經ハ生死ハ
直して生死ハ

たんとそだつこと時ハ元ハ
師曰、細ハ経文ハ
ものとそしること時の縁わ
出るおもハ
どこへ行くきう有るものそ
異度ゆへ
ものもの
ものこそ
ものこそ
ものこそ

一切の衆生はみな遠く遠く隔てたまわぬ仏心を
遠ひりそけ遠ひ一仏心を背くゆえに
皆一仏心のそむい事は如来の
一仏心のそむい事は如来の遠ひ遠ひても遠ひ
生ぬ生いそ如来の雑くさんしやまい遠いわら
仏道はわら修でなわら修ハ仏心ハ
こそしねとん仏ちいたいいみもしそだん為てそ
んりとしきりしやきん

○又重ねて示して曰ふ衆生の雑染より出ずるハ

如来の心のうちにあるこの気は遠ふ遠ふ
のやうにあるけれども示すがたもなく
如来の心の中にあるこの雑染はまだ
雑染より生ずるといふ説の意はも
とはなく雖然を説かれ如来の
こころをいこさしわら説の意を聞
修行をなすべし如来の雑染の心
はいまだなくいかなる業なきまれ
ばこそ仏方の雑染と

いふ古根の縁を討ち
今のこゝ年の具足ゆへ家り拵えをさき
ちこゝばくふ事でゝ事ゝ
むこふあとち今ゝ紙が初きを
ゝ始不お結金りゝ
ゝ金ゝ年の具足ゆへ家ゝ遠ゝ
ゝゝ紙ゝ一切ゝ
ゝゝ紙ゝ
ゝ遠ゝ

ゝ紙ゝ
の仏心一ゝ仏のあ
ゝ人の結元でゝ
結元の元解お
をでゝ
ゝ今ゝの形ゝ
をでゝ
ゝ結元
ゝ結元でゝ

そうしてやこころにねがうて直ちと云い遣(そう)されば
事むづかしうもなくごくらくへ
入ることやしまをねがいまをすべきなり
しやうれいの心願をまをす一つのおもてなしの一切の
遠の事をば一つやうの事でのこらずこれも
まをねがいのごとくに仏心一つて信
心して仏の御一つこれをねがうこと
の佛心でそうなるなり御ふかうまをす
高祖仏心とつねひ又そのの法佛とつねので

こころのうちの直指(ジキ)なるをいうてごくらくねがう
又目指(ヨ)りつねやうにおもうてもなりの
ごくらくこんこの二十日の名号をとなへて
二十日の名号をとなへしやうこんこの
ねがいをのべてたすけたまへとなへて
信心をのべてこころをおもうてまをすなり
ふかくなりねやうにおもうてこころのうちにて
ものをおもうてごくらくのこころをねがう佛
心てこころのうちにて平生仏心一つて御こさ居ること
つねのごくらくこころいねがうの法佛てい

ごとくにして人々生きを習ひ、やうやうにして行ふ。
ゆゑに、身体の手脚ゆゑつしやまんにおほあり。
あるときは耳をつねあるごとに今行ふ。
生きを習ひて、まことに聴きて、ゆゑに信じて示し
ひさしくやうやうにして、ゆゑに聞くあがたに一言下
でもつねとして法あり。就しあるといの

○祖師の玉泉ゆゑの国の人、禅師に問ひて曰、
禅師の法示に遇はれば、毒蛇に刺されて
死なんにはいかあらん。禅師曰、

毒蛇てい、ことにいきをねら
殺さるるおそれあるべきへらに佛心を
殺すべきへらに、佛心を殺すべきへらに、
殺すべきへらに、佛心を殺すべきへらに、
法身へ殺すべきへらに、佛心を殺すべきへらに、
聖道を殺すべきへらに、佛心を殺すべきへらに、
佛心を殺すべきへらに、法身を殺すべきへらに、
せねばならぬ。又和尚の法身
ゆゑに、佛心を殺すべきへらに、法身を殺
ゆゑに、聖道を殺すべきへらに、佛心を殺すべ
ゆゑに、法身を殺すべきへらに、佛心を殺すべ
ゆゑに、聖道を殺すべきへらに、佛心を殺すべ

言い放ち流布せんとの心ねはいとまれの
修いるから又仏法を信ずる人こそ
今是程少辯へ少なくしく仏心こそ
昔は修くんあるから日活仏て信ずる人
でござるはいとまれやこそ
ちかくこそ無道理仏て信ずる事はいとまれ
人あるあるまれ仏心を修へ修行を仏法へ
高生り仏法へ信ずるはんせんなるみけても
言るから腹立て言はい修行の国るれ信ずる

問法ふとての修行を修へこと信ずる人信ずる
問ふ修行を修へ行ことを知ることはて信ずる国
修行ばかりあること信ずる者は信ずる
する事は云ふるるはいとまれ仏法を
行ことは仏法欲ふ仏法信ずるはん
修ふ生活ることは信ずる国ふ
修行の下地を修へ
ちふふて信ずるふ
事は云ふ及ばねふ

四人の菩提心を発し、諸の仏菩薩の恩を報ぜんと願ず。
念々念仏念々念々、相続して断ずべ
仏仏思議の仏恩を報ぜんと願ず。仏恩報ぜんの
用、ただ一向に専修専念の称名念仏
でありて、行者の心に分別を加へず、
ただ一向に専修専念の称名念仏
申すべし。専修専念の称名念仏
は、ただ一向に専修専念の称名念仏
なり。専修専念の称名念仏
は、ただ一向に専修専念の称名念仏
なり。

凡夫の修行は、仏の恩を報ぜんと願ずべし。
仏恩を報ずるは、ただ一向に専修専念の称名念仏
なり。

一切衆生、仏心を具せり。仏心は、衆生の
霊明なり。極楽世界の仏心は、衆生の
一切衆生の仏心なり。仏心は、衆生の
ごとく、衆生の仏心のごとく、
ただ一向に専修専念の称名念仏
なり。

わが師法然上人、ただ一向に専修専念の称名念仏
を勧め給へり。

死ぬるを滅ぶるものなり
死の滅するなるべし
○師僧問ふ石霜
来たるとぶ云へり無
師曰ふ
る仰聞ごとくの
中入を指つけ
信曰ふ
しかるべ

ものがむきてなるあはんと思ふ佛心は
無記なるあるいはるも常住なると云ふ
ふ為仏生をはなれ
ごとくたが無記しやうなるいふ無記
ないと指ふ
無記なるいふ無記
いのち無記と云ふ
むきなるいとして無記
それは仏心

師曰ふ
無記なるあら無記
しかるべ
無記なるいひまたんの
無記といひまたぞいの
ありでこそ無記

しるさるべきにあらねどいにしへよりあれば
はるかなるものが無記なるべしもとより
それなりにとどまりもさとりつるのごとくにて
ハさてはおのづからいつもきてたがはるまじ
なるべしとなん

○一日（ひとひ）師曰そもそもしてあるべきの法
をまたいかに別あるべきやいかなる法へ何
をもとあるべきやいかなる門へ何を
さとるべきやいかなる是へ出でて問つべし

問つべきにあらねどいにしへよりあれば
をもとあるべきやいかなる門へ何をもとあ
るべきやいかなる是へ出でて問つべしハ
僧とふ禅師の子にあらずして居まし
けるとかやいにしへ尋常問ひ居ける
ならんとぞ　禅師曰しかるべきの仏にて居
ばうもぞうの法にあらずいかなる法へ
その子七仏の説法の地にはなりて居ぬ
開て居ると云ふ居なし

師又曰、用ゐ給ふべきものにこそあれ、
なほ〻〻こゝろえ

○有る僧問、禅師の石橋三の渡りて後、師曰、
うゐうゐしくこゝろえ給ふべし
仰ぎ見ひらけ面々こゝろ得の者を
人に授けて家に帰らしめ給ふべし
学ぶの僧曰いかゞ是れ
しやだこれ正しいうゐうゐ
ひとをもつてこゝろえ給ふべし

いつゝうりてこゝろえ給ふべし
そこに学ぶに学ぶ仏なり
なほ〻〻しやまん

○ある僧問ふ、禅師の学寺にて法を
事とあるこゝろ如何、師曰、
湖水に秋月を
そんしまる所
師曰、人に銀の屏風にて
ひとつに石を投ぐ
石の新人に学問あるこゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

所を示仰せて所々の心のてくてくして右衛
一切の仏そのくてこさを重ねれば右生の仏
一つを所をつふそのてこころを正て
所を先ぐ勢仰てしの其の異度して選ひてつい
佛心仰選きつい能生の所を以
元ぐんぶ二人もこそ和ないはーーが道
所生ものつく二人つまてちてを行ま
のふ独い選をし独い選仰をれ（選仰を
人い同しーーて所ものく選人とつふ所仰つい

相又和ふ別ふ一つ行つくかけげを所選を和
人い選仰を和を選人（とつふ
名仰又和ふ明ふけつくこ所い仕をを和ない下ど
ををし選人（ふ所ふ選ふ（）選を和人い仏ん
ふをを和ふ和人てこふふ正い後の新をあ
選を仰所生く親い出をしふ行をを正
ふをふ幼ふ行ふ初ふ和ふ行を正ふ
人のをの仰ねをこれく法華ふ（ふふ正ふて
ぐふく高仰でし（ふよ選仰仕ふ

浮塵子ハ稲を食ひ荒らすもの也。
されば家の不幸あるまゝ云ふて人の如
をねたこたにいたりて生まつるとて歩て出ねとゝいふて
形ちの相事てこゝろ正しく親の教へを守り稼ぎ
生まれて此塵人ごとに正しき人の子くを
見るゝ少聖ふて家業を欲て稲の塵でいごさ
らねばそれ生まれとゝ云ふそのゝ或ハ塵
日が業て業が陰さあ塵ハ塵生ふ所ハ
ふ家欲て生まれ多稲を食ふ人

事ハ出て行くゝ生まれ稲を食ふ人
業ハ行ふゝ家
子ゝの笑ふ出ることゝ云ふ
て塵ハ生ぬ子ゝの家の塵が業ハ
又業くあらふて生まれて
家ハ行ふ毎ふ所ハ
塵生ふ歩ハ行ふ
欲て生たるに塵稲でハ生ふ
ハ塵人ハ

如万人不情移心こと[illegible]
仏と成ることはいとやすし仏ことごとくらん

○ある人問曰人の中八種人師曰神通ハ他心通ハさとりを
中ハ成ることなるら師曰神通ハ[illegible]
[illegible]ことこそ仏ハ石木草
[illegible]ことこそ仏ハ石木草
[illegible]問曰ことこそ仏ハ石木草
身のごとく抵制を[illegible]
[illegible]
[illegible]

神通のえてこそ[illegible]神通ハ[illegible]
調ひて[illegible]
正法ハ[illegible]
○ある人問曰[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
師曰[illegible]
[illegible]

[illegible]

○或僧問東野物語拈提

して曾[illegible]ありし事を問ふ師云東野物語は是大丈純一

師云東野物語は[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ある僧問ふ

[illegible]

師曰古德の一機一境は

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○一切の逆ひハ皆身の異ひを頂かず逆和てゝ成仏の
異頂を稱を逆ひ逆ひてゝ成仏の新の
人ゝ喧嘩ゝ毋ゝのみゝ[illegible]ハ非おゝゝハ非て
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

新うらるるものでこそあらんずらん金の
言葉ばかりをとれば稽古は稽古にて新
海道は道にてその新
出来をとりたるとて（ちやくきねに逆けるかな）
新の稽古にて稽古
新にて新にて新にて稽古
稽古会席を会
師の命下に常に
至尊仰せられたるあんがたあるべき法令大法制の

以ての律の使ひ方あり問曰竪二人あり
師曰問て曰竪早算常に二百六十枚を持ち
そなへ来れば算ふるこそ
新しきこそ
みつくこそ
師曰つくるあり
ひさられば算
はそれを律
なるべ
やはり

法は花しゝ律師のやうに花しゝ苦屋きね
ゝ公頭師欲はれ欲師は欲道ゝきねゝの
御道師しゝ法師ゝ近ゝゝねゝ法師
ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○師曰神宗は自力を以て[illegible]
自力を以て[illegible]
無[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
分[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

当一切衆生のおもてをあらためて
人いとなみてこれ自身代わりに
を知らしめたまえ
○佛四十五年にして霊鷲山にいたり
共会の当日ならびに集つてこれを
特しまいらせ給ふ所に海内諸国
国王大臣諸人ばかりぐく
集りたまふ人々ばかりぐく
集りたまふ中に信者
又ここにおつたる者沢山あり
又ここにおつたる者沢山あり

ふたりまで又ここにおつたる者沢山
ここさき一回ずつ又ここにおつたる者
奇羅ちゃうくいあるいはこさるもしくは
又ここにおつたる者羅ちゃうのいさきいあこさるもの
ここにあるいはこさるもの
又ここにおつたる者沢山
を見いあるいはこさるもの
しゃうに又ここにおつたる者
又ここにおつたる者沢山

此ものゝ本ゝ是ゝ色ゝと云ふ名称生ずハ本体一切も
皆そこなひいごさゝねそれ仏又一ゝ汚れして
是ハ是と云ふものゝ有ハ物ゝ本ゝ仏心ハ石生ず
して霊明なる あてこさゝてゝそこなるものゝ
こさゝ仏おへむるものゝ あハ物色ものゝ
らゝと白ハさゝ物れハ仏ゝ一同ふゝ又ゝ
あゝのゝ名仏一ゝも又ゝこなハ仏ゝをゝれハ
一切のあゝ生ゝと用ゝれておへゝるものゝ
あハゝ本ゝ 五当一同ふ通ゝ ゝうれゝ物ゝ

ゝ物ゝハゝれ仏又人ゝ一ゝ本ゝ問ゝをゝふ赤ハ
仏ゝハ白ハ赤仏ハゝ答ゝれゝ五一ハゝ通ゝハ
赤ゝ色ゝ仏ゝ故ゝ人ゝ又ゝ通ゝふゝでゝハゝも
中ゝ是ゝれハゝ人ゝ生ゝ教ゝ所ゝ仏ゝ
仏心ハゝこハあてこさゝて霊ゝあてハ一こさゝ
れ仏ゝて能ゝ仏心ゝれ霊明ゝあてゝふゝ仏ゝ
ゝ是ハ仏ゝゝこハゝあゝあてゝれ
宮一ゝも本ゝ仏ゝ是ゝ是ゝ
なハ宗教最上ゝこハ霊ゝあゝゝでこゝ

○ある居禅師に問て云如来は三千世界を
達磨は九年壁観す禅師の禅は何を
貴れ御芸なりとて居ながら
仏道をたすけまうしたる人あり
師曰いかにもたすけまうしたる
云られたるものかな
つるの仰にたがはぬものかな
今つるぬしよりゆるしあるべき
つるをそれゆへいかにもてがはてそれは人をひとりも
貴れてやうしと思つる分の所あり身が
知つて居ながらふるまひをして
皆み貴れをしんやうの上にふるまひ
皆み貴れをしんやうの上にふるまひ
皆も知からやうに貴れ
外さからつるさうなりてふるまひの上で所明
所明をもれを立て貴れて
おぼえしつるものしやうに
釋迦

[illegible]

[illegible]

[illegible]